

【様式2】A案

学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表

学士教育プログラム名称

__法学__ 学士教育プログラム

URGCC学習教育目標		学士教育プログラム学習教育目標	学士教育プログラム学習教育目標がURGCC学習教育目標と対応する理由
自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	社会人として必要な基礎能力(1)自主性	自律性≒自主性。法学を学び、自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自主的に学習し行動することができるようになる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。	社会人として必要な基礎能力(2)社会性	社会性＝社会性 法学を学び、市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できるようになる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	社会人として必要な基礎能力(3)平和性	世界平和への貢献≒平和性。法学を学び、世界の平和に貢献することができるようになる。
コミュニケーション・スキル	言語(日本語と外国語)とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	社会人として必要な基礎能力(4)コミュニケーション・スキル	コミュニケーション・スキル＝コミュニケーション・スキル。法学を学び、言語を用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができるようになる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	社会人として必要な基礎能力(5)情報リテラシー	情報リテラシー＝情報リテラシー。法学を学び、幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができるようになる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	社会人として必要な基礎能力(6)問題発見・解決能力	問題解決力≒問題発見・解決能力。法学を学び、批判的・論理的に問題を立て、思考し、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができるようになる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。	社会人として必要な基礎能力(7)専門性	専門性＝専門性。法学を学び、法学における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができるようになる。